

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2020年												2021年														
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月 ~7日	11月 ~14日	11月 ~21日	11月 ~28日	12月 ~5日
カンピロバクター	42	46	55	54	92	177	241	189	97	132	148	125	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	11	22	25	26	25
病原性大腸菌	22	34	39	30	24	63	60	76	52	42	41	52	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	19	12	15	15 (16)	12
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	4	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	0	0	1	1	0
サルモネラ	4	1	2	4	10	7	14	29	16	10	10	3	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	2	2	2	1	1
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	20	11	3	9	15	15	20	13	17	18	12	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	4	5	4	8	1
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	11	17	8	14	14	11	17	9	10	11	9	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	0	3	2	3	6
腸炎ピブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	1	0	0	7	0	0	0	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	0	2	1	0	0
ロタウイルス	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ノロウイルス	10	14	6	1	0	0	0	2	0	0	0	1	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和3年第48週(11月29~12月5日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	8	結核	8		2			2	2	2
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1					1		
四類	4	つつが虫病	1	1						
		レジオネラ症	3			1	2			
五類	5	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1	1						
		梅毒	4				1	2	1	
新型インフルエンザ 等感染症	2	新型コロナウイルス感染症	2	0	0	1	0	0	0	1

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第48週は新規感染者の報告はありませんでした。現在、感染状況は昨年の6月以来の低い水準となっています。この状態を維持するため、マスクの正しい着用、手洗い、ゼロ密、換気など基本的な感染防止対策を徹底しましょう。

2 手足口病

定点当たり2.92人の報告がありました。11月上旬に一旦減少しましたが、再び増加に転じています。

また、広島県は、西部東保健所管内(東広島市、竹原市、大崎上島町)の定点当たり報告数が警報開始基準値(定点当たり5)を上回ったため、12月2日に県内全域に「手足口病警報」を発令しました。

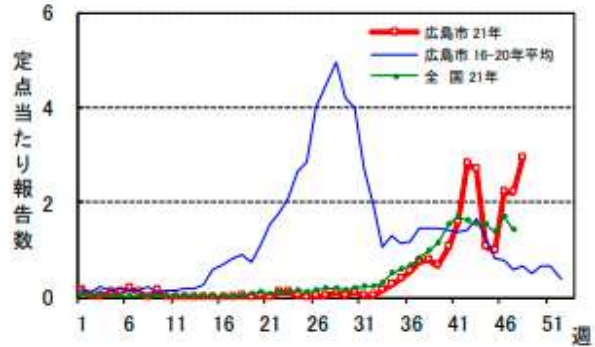
手足口病は、接触感染や飛沫感染などで感染し、乳幼児を中心に流行します。手洗いの励行、オムツの適切な処理など、感染予防対策を心がけましょう。

【詳しくは、以下をご覧ください】

「手足口病警報」を発令しました！(広島県)

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/269/teashikuchi-keihou.html>

手足口病の流行状況



3 感染性胃腸炎

定点当たり4.46人の報告があり、前週と比べて増加しました。

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号
フィレン	インフルエンザ	-	-	2.84		小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.09	
小児科	咽頭結膜熱	1	0.04	0.54		眼科	RSウイルス感染症	1	0.04	0.49	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11	0.46	2.63		眼科	急性出血性結膜炎	1	0.13	-	
	感染性胃腸炎	107	4.46	8.68	▲	眼科	流行性角結膜炎	3	0.38	0.40	
	水痘	1	0.04	0.45		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	70	2.92	0.67	▲		無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.22			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.06	
	突発性発しん	5	0.21	0.34			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	9	0.38	0.22		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.03		

急増減	▲	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	▲	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	▲	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	□	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	95	20歳代、60歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	19	10歳未満・O165
4	レジオネラ症	2	35	50歳代、80歳代・市外
5	梅毒	1	96	30歳代